

結腸脾彎曲部癌のリンパ流を解析する研究

2020年1月1日から2021年11月8日までに結腸脾彎曲部癌のために手術を受けた患者さま

研究協力をお願い

当科では「結腸脾彎曲部癌のリンパ流を解析する研究」という研究を行います。この研究は、2020年01月01日より日本医科大学多摩永山病院にて、結腸脾彎曲部癌のために手術を受けられた患者さまのリンパ流を解析する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただきず、この掲示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：結腸脾彎曲部癌のリンパ流を解析する研究
研究期間：倫理委員会承認日～2029年12月31日
研究責任者：日本医科大学多摩永山病院 消化器外科 堀田 正啓

(2) 研究の意義、目的について

大腸癌の手術は、癌を含む腸管と支配領域のリンパ節を一括に切除することが標準的な術式です。大腸癌のリンパ節転移は、リンパ流(リンパ管)に沿って転移をきたします。しかし脾彎曲部は、発生学的に異なる右側結腸と左側結腸の移行部にあり、そこに発生した癌のリンパ流は十分に明らかにされていないのが現状です。これまでに、手術前に造影剤を用いて撮影されたCT画像や3D血管構築画像で術式を決定する方法などの検討がなされてきましたが、癌のリンパ流に着目して術式を決定する方法は検討がなされていないのが現状です。本研究は、結腸脾彎曲部に発生した癌のリンパ流を明らかにすることが目的です。得られた成果は、結腸脾彎曲部癌の術式の定型化に繋がり、手術時間の短縮や切除領域の縮小により、患者様が手術により受ける身体への負担が低減される可能性があります。本研究は実施にあたり、日本医科大学多摩永山病院倫理委員会で審議され、研究機関の長の許可を受けて行っています。

(3) 研究の方法について (研究に用いる試料・情報の種類)

2020年01月01日から日本医科大学多摩永山病院外科にて、結腸脾彎曲部癌の手術を受けられた患者さまにご協力をお願いします。本研究では、手術で摘出された検体は、通常診療と同様に病理診断が行われ、病理診断結果によるリンパ節転移の状況とICG蛍光法で認めたリンパ流の方向を解析します。これまでに手術を受けられた患者様に関しては、通常診療で得られて臨床データや手術所見及び病理組織学所見及び検体を使用します。この研究は、患者さまの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：血液、手術時に切除した癌組織、正常粘膜組織等
情報：年齢、性別、癌種、病変部位、術式、病理結果、腫瘍マーカー、遺伝子変異情報(KRAS、BRAF)等

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(文部科学省・厚生労働省)」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。

(6) 問い合わせ等の連絡先

担当者：消化器外科 堀田 正啓
日本医科大学多摩永山病院 倫理委員会事務局
〒206-8512 東京都多摩市永山1丁目7-1
電話番号：042-371-2111(代表) 内線：2302
メールアドレス：nagayama_chiken_center@nms.ac.jp